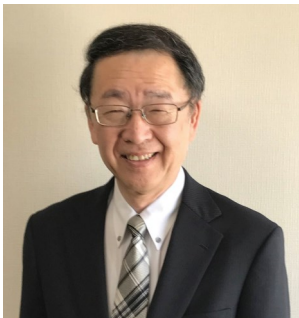


『地域の医療を守る“6つのチャレンジ”、阿賀野市でも始まっています!!』 ～阿賀野市地域医療フォーラム～



雪の瓢湖

発行: 阿賀野市 民生部地域医療推進課
TEL 0250-61-2503(直通)
FAX 0250-62-0281
E-mail: chiikiiryo@city.agano.niigata.jp



梶井英治氏



藤森院長

11月25日(土)、水原保健センターで開催され、市民84人が参加しました。

＜基調講演＞ 茨城県筑西市医療監(前自治医科大学地域医療学センター長) 梶井英治氏

地域医療の役割は、住民の「健康問題」のみならず「生活の質」にも注目しながら住民一人ひとりに「寄り添って」支援していく医療活動である、とお話がありました。

その役割を果たすうえで、“7つの約束”として

- ①地域医療は、医療者、地域、行政、議員が一緒に作るもの
- ②医療者と住民の意識のギャップをうめよう
- ③健康は人任せではなく自分で守るもの
- ④医療、福祉、健康づくりが一体であることを理解しよう
- ⑤お互いが支えあって地域の安心をつくっていく
- ⑥医療とともに、健康づくりに必要な人員や財源を確保しよう
- ⑦医療機関のネットワークづくりを進めよう

そしてこの7つの約束を果たすうえで、市民の皆様からは

“6つのチャレンジ”をしていただきたいというお話がありました。

- ①自分の体や健康についてよく知ろう⇒食生活に気を付け運動をしよう
- ②かかりつけ医をもとう
- ③休日夜間には本当に必要な時だけ医療を受けよう
- ④医療者の立場を考えて、敬意を示そう
- ⑤家族や地域が健康であり続けられる行動をしよう
- ⑥一歩踏み出す勇気！一緒に考え行動する仲間を作ろう

＜シンポジウム「安心して暮らせる地域医療づくり」＞

あがの市民病院の藤森院長からコーディネーターを務めていただき、4人の方から発表していただきました。



神田健史氏(新潟県福祉保健部福祉保健課 医療政策担当参与)



「地域医療を守り、育てる住民活動」と題して、全国各地の事例を紹介いただきました。

医師は、病院内では専門職として役割を担っているが、地域に出れば一人の人間であり、地域の皆さんから育ててもらえるような住民活動が大切。

佐藤幸雄氏(安田地区生活支援協議体)

「生活支援 安田地区の活動紹介」4エリアで協議体が発足し、地域の住民の皆さんは何に困っていて、どのように支え合い、助け合いが必要かを直接各自治会の皆さんから生の声を聞いて、より地域で助けあう互助の仕組みづくりを目指す活動を展開している報告がありました。

また、転倒から骨折により寝たきりにならないための運動教室(シャキ!いき!健康法、けんこつ体操、ロコモ予防、筋トレ(軽いスクワット)、脳トレ、水分補給・熱中症等の講話、ラジオ体操他)を各自治会に出かけて行って指導しています。



高橋義衛氏(水原地区 中島5自治会)



「生活支援 水原地区の活動紹介」中島5自治会は少子高齢化が進む中で、思いやりの気持ちを持って、お互いが支えあい助け合っていこうということをモットーにして活動を進めていて、特に元気高齢者・青年部・女性部の皆さんが積極的な活動を展開しています。

生活支援事業として①救急支援(緊急の場合、役員が救急車の手配や病院へ同行する)②買物支援(毎週1回スーパー等に同行する)、③家庭内支援(重い物の移動や電球交換等)、また、環境整備事業やサロン活動等、自治会組織で協議し、必要な事業を行っています。

富樫留美子氏(あがの市民病院訪問看護ステーション)

「在宅医療としての訪問看護の報告」

訪問看護は病院や開業医の先生からの指示を受けて、在宅で療養されている方の看護を行っています。毎月延べで120件以上訪問しています。訪問看護では、治療だけでなく、ご本人の希望されている生活が送れているか、介護する方の負担は増えていないか、等も評価しながら看護を行っています。



新たな受講者も増えています！ 新潟大学医学部健康講座塾

9月から12月に、新潟大学医学部健康講座塾が5講座開催されました。講師とテーマは次のとおりです。

- ・9月19日 脳神経外科講座① 藤井幸彦教授
『目で見る脳機能～脳卒中・認知症の診断のために～』
- ・10月12日 整形外科講座 谷藤理助教
『変形性膝関節症～疼痛軽減を目指して～』
- ・10月31日 脳神経外科講座② 藤井幸彦教授
『脳機能障害を疑う時
～脳卒中・認知症の診断・治療について～』
- ・12月1日 腎・膠原病内科講座 成田一衛教授
『じんぞうのはたらきを知って、健康に！』
- ・12月14日 泌尿器科講座① 富田善彦教授
『血尿と前立腺肥大のはなし』

多い回では100人を超える参加があり、大変好評です。毎回、講演後にあがの市民病院のスタッフ（診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士等）による講演内容と関連した講話や実践指導があり、わかりやすく、生活の中で実践したいという声が多く聞かれました。



藤井教授



成田教授

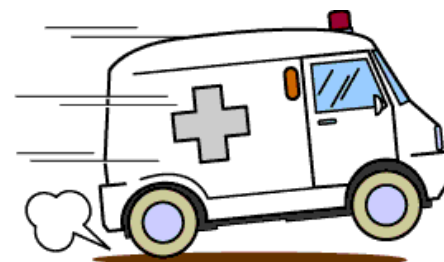


谷藤助教



富田教授

「阿賀野市を取り巻く医療情勢は…」 市民講座を開催



8月31日水原保健センター、10月4日安田公民館を会場に、あがの市民病院の藤森勝也院長を講師に迎えて市民講座を開催し、2回合わせて117人の市民が参加しました。

講演では、阿賀野市は人口10万人当たりの医師数は約80人で、大変な医師不足である。また新潟県全体も2014年末で人口10万人当たり200人で、全国平均の245人より大幅に少なく、全国ワースト5位と報道された。その中で、救急車出動・搬送は増加を続けており、軽症者の時間外利用も医療機関の現場を圧迫し、本当に緊急性の高い人の受け入れも困難になる場合もある、等の医療の現状が話されました。

一人ひとりが医療の適正利用に協力し、自分自身の健康管理を心がけていくことも地域の医療体制を守るために大切ということで、後半は元気で長寿をめざすための生活習慣についての講話がありました。

参加者からは、「市の医療や病院の現状を知る事ができて良かった。先生方もいろいろと工夫されたり研修会等も行っていることも紹介いただいてよかった。」「医師不足の対策を充実してもらいたい。自分自身も健康寿命を伸ばす取り組みをしていきたい。」等多くの感想が寄せられました。

あがの市民病院院長から直接、話を聞いたことで、病院を身近に感じ安心できたという反応が多く、地域の医療を考える貴重な機会となりました。

